

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

北九州工業高等専門学校 生産デザイン工学科 物質化学コース (助教)

高原 茉莉



出身大学・卒業年度：九州大学大学院 工学府 化学システム工学専攻 2017年3月 博士課程修了
博士論文タイトル：固液界面で機能する核酸-酵素コンジュゲートの設計とその高度利用

「現在の仕事について」

◆担当職務

工業高等専門学校教員

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2017年3月 九州大学大学院 学術博士課程修了。DNAとタンパク質の部位特異的複合化技術に関する研究

2017年4月～2019年現在 北九州工業高等専門学校 生産デザイン工学科物質化学コース助教。細胞膜表面の機能化に向けた部位特異的なタンパク質脂質化技術に関する研究

◆そこでのやりがい

高専と言えば、ロボットコンテスト（ロボコン）をイメージされる方が多いと思います。しかし、ロボコンだけでなく、化学系の学科も存在します。どの学科も研究熱心で実験が上手い学生さんが多いので、私もやる気になります。高専生は高校1年生（高専1年生）から大学2年生（高専5年生）まで毎週必ず実験もしくは実習を履修しているので、実験スキルが非常に高いです。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

物質化学工学科だけでなく、機械、ロボット、電気、情報学科が一学科に統合されているため、多様な学問の観点が存在する点が魅力的だと思います。特に学科間の学際研究がしやすいというのは高専特有と感じます。

◆現在の就職を決めた理由

大学以外の研究機関で仕事をしてみたかったからです。特に北九州高専は高専の中では都会の方に位置し、生活しやすいという面もあります。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

教育者・研究者として、まずは修行したいです。教育に関しては、まずは分かりやすい講義資料作りから頑張ります。研究に関しては、実験技術や研究立案、論文作成に関しては未熟な点が目立つので、きちんと卒業研究を指導できるよう、頑張りたいです。

◆挑戦したいと思っていること

学生時代の研究とは異なる、薬物送達に関する研究に挑戦しています。北九州高専は近隣に北九州市立大学、九州工業大学があり、連携して研究を行うことで、単独ではできない研究を達成したいです。

◆社会人として一番感動したこと

まだ社会人になってから日が浅いので、一番はまだ決められないです。もっと社会人経験をしてから決めます。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

社会人になると勤務時間というものが出現します。そのため、時間内に作業する必要があるため、ダラダラせず、作業要領が良くなりました。

◆仕事のプロになるコツ

自分に適した仕事・職種を発見できるように、自己分析をすることです。自分に適した仕事であれば無理せず取り組みますので、仕事を重ねていくうちにプロになれると思います。研究と同様、できる限り自分の興味があることをすることが大切で、興味がある仕事ができるよう常に努力する必要があります。

◆博士力、どこで発揮していますか？

私が考える博士力の一つは、研究目標・実験系を自力で設定し、研究目標と達成する力です。この博士力は、私自身だけでなく、学生さんが興味を持ってくれるような研究を考えたり、学生さんに与えられた期間で遂行可能

かどうか事前に想定したりするために非常に重要です。特に高専では、卒業研究の時間は90分×4/週です。無理なく研究し、研究の楽しさを感じられるようにするには、研究に工夫が必要です。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

研究したいからです。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

親孝行です。

◆ワークライフバランスで工夫していること

自分が一番やりたいこと＝研究なので、特にストレスなく仕事を頑張っています。働き方ですが、疲れたと思ったら何が何でも定時で帰宅します。次の日に疲労を持ち越さないのが一番です。

◆現在の夢

高校時代から医薬品関係の仕事をしたかったので、医薬品に貢献できるような研究者になりたいです。

◆将来の展望

面白い研究を続けていくことです。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
博士課程を考えている人は、とにかく実験をいっぱいすることです。研究室で学ぶ装置の基礎原理、使い方、メンテナンス法は、企業大学を問わず重要な技術です。留学生の実験指導、研究議論にも参加し、学術英語を鍛えましょう。日常英語は普通の留学でも身につきますが、専門的な会話を練習できる機会は非常に貴重です。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

分からないことを人に聞くのは大事だと思います。ただし、自分で考える前に、人に聞くのは良くないです。自分で考えて、自力で行ったことの方が定着するので、その機会を失うのは勿体ないです。

連絡先 E-mail: takahara@kct.ac.jp

Interview ②

神奈川県立産業技術総合研究所（常勤研究員）/ 横浜国立大学大学院（特任助教）

景山 達斗



出身大学・卒業年度：横浜国立大学大学院工学府機能発現工学専攻 2017年3月 博士後期課程修了
博士論文タイトル：毛髪再生医療を目指した毛包原基の大量調製に関する研究

「現在の仕事について」

◆担当職務

再生医療（特に毛髪）に関する研究開発です。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2017年から横浜国立大学で特任助教として学生の研究指導を行いながら、2018年からは神奈川県立産業技術総合研究所の常勤研究員として、毛髪再生医療の実用化に向けた研究開発を進めています。

◆現在の職場の魅力

殿町キングスカイフロントにある研究室が魅力的です。羽田空港の対岸にあるため、昼には飛行機の離着陸を見ながらコーヒープレイクを、夜には空港夜景を見ながらお酒を楽しむ生活ができます。

◆現在の就職を決めた理由

博士の頃に開発した毛髪再生技術を、研究ステージで終わらせず、実用化まで進めることで脱毛症の新しい治療法の進歩に貢献したいと考えたからです。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

挑戦的な課題に果敢にチャレンジしながらも、着実に研究を進められる研究者を目指したいです。将来は、研究室の主宰者（PI）になり、自分が携わった研究をもとに教科書（専門書）をつくりたいと考えています。

◆挑戦したいと思っていること

海外の研究者と積極的に仕事をしたいと考えています。

◆仕事のプロになるコツ

プロになるために心がけていることは、自分の好きなことに徹底して打ち込むことです。

◆博士力、どこで発揮していますか？

博士の頃に身につけたコミュニケーション力とマネジメント力は、仕事のみならず私生活でも役に立っています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

神秘的な「細胞」に魅了され続けているからでしょうか。毎回違った振る舞いを示す細胞には心踊らされます。好きなことを続けることの喜びは何ものにも代え難いです。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

研究に必要な活力をつけるために、おいしいお酒やご飯を食べに行くため、また年に数回の旅行を楽しむためです。給料を頂いた分、社会に貢献できるように心がけています。

◆現在の夢／将来の展望

研究者として、毛髪再生医療の実用化に向けた技術を確立させ、患者さんが自由に毛髪再生医療を受けることができるような社会を実現することが、現在の夢です。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
学生時代に海外留学を経験していればよかったなと感じます。トビタテ！留学 JAPAN などの制度もあるようですので、是非チャレンジしてみてもはどうでしょうか？

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

「出る杭は打たれるが、出すぎた杭は打たれない」という名言があります。何か新しいことに挑戦する時には必ず批判もあるでしょう。しかし、自分を信じて努力した者は誰も手をつけられない存在になるのではないのでしょうか。出すぎた杭として、常識にとらわれない新たな社会をつくっていく生き方も素敵ですよ。

連絡先 E-mail: kageyama-tatsuto-tp@ynu.jp